

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572207827		
法人名	有限会社 湯の里		
事業所名	グループホーム 湯の里		
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字木戸沢199番地70		
自己評価作成日	令和5年8月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・広い庭園で新緑とつじを眺めながらの会食、秋は紅葉を楽しみながらたんぼ会を行うなど、四季の移り変わりを感じながら、利用者がのびのびと過ごしていただくよう取り組んでいる。 ・自然豊かな温泉地でホームにも温泉が引かれ、毎日温泉浴を楽しんでいる。また、清拭等を行うことで清潔保持にも努めている。 ・行事や作品作りなど利用者と職員が一緒に行うことで、できることを探し、個人の意欲や個性を尊重しながら支援を行っている。 ・秋になると当ホーム系列の畑に行き、栗、柿の収穫を楽しんでいる。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年11月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

主に昼食と夕食を作る専属の職員がおり、旬の食材を取り入れて調理したり、行事の時には彩のある食事と手作りケーキを提供する等して利用者に喜ばれている。入浴ではホームに引き込まれた温泉を利用したり、お昼寝の後に毎日全身を清拭したりすることで肌のトラブルが少ない。浴室、ホールや廊下の窓からは、庭の草木や周囲の景色がよく見え、四季の変化を感じることができる。勤続年数が高い職員が多く、働きやすさとともにチームワークや団結のあるホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念は玄関に、ホームの目標は玄関、事務所に掲げ、理念に沿ったサービス提供が図れるよう心がけている。	開設当初から変わらない理念に基づき、管理者は職員に感情を表に出し過ぎないように声掛けをしている。様々な場所に掲示しよく目にする事で、職員の理解を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症防止の為、地域との交流が取りにくい状況となっている。中学生の職場見学、職場体験の受入れを今年度から再開。	新型コロナウイルス感染症が流行するまでは、地域や家族を招いたたんぼ会を開催していた。今年度は、地域住民から避難訓練に協力してもらったり、地元の山本中学校生を職場体験として受け入れたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	感染防止の為、地域との交流が取りにくい状況となっているが、グループホームへの関心や相談など真摯に対応し、地域に開かれた事業所となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染防止の為、資料にて開催していたが令和5年7月よりホーム開催を再開している。資料には利用状況、活動状況等を記載してホームの状況をお知らせしている。	7月に開催した会議は対面で行われ、行事等の様子をもっと詳しく知りたいとの意見が出されている。3月で1名の委員が辞任しているため、新たな委員を検討している。	新たな委員について、民生委員、地域の自治会組織や警察・消防関係機関等から地域の実情を踏まえ人選し、早期に補充することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と電話で情報交換し、指導や協力を受けながらサービスの提供に努めている。	地域包括支援センターから紹介を受けた入居者がおり、日ごろから情報交換等がされている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員がカンファレンス等で話し合っており、身体拘束、虐待をしないケアに取り組んでいる。また、勉強会で学ぶ機会があり、ホームでの虐待は勿論、自宅での虐待がないか本人の表情や身体を観察している。	月1回開催する管理者会議において身体拘束を実施していないことを確認するとともに、職員会議にてその内容を伝え、各棟の職員へ周知している。以前は同様の書類が散見されていたが、現在は綴られるファイルが定められ整理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在この事業や制度を利用している利用者はいないが、管理者や職員は研修等で学ぶ機会があり、必要な人には活用できるよう支援することができる。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分な説明をしている。利用料等の改定時は口頭や文書により十分な説明を行っている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見、要望を話せる雰囲気作りに努めている。	直接話し合う場面がづくりにくいいため、電話や手紙等で家族等の意見を聞き取るよう努めている。苦情受付窓口を再考し、改めて重要事項説明書に記載し家族に知らせるとともに、ホーム内に掲示してある苦情受付についても家族が相談しやすいように見直しを行い更新している。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月職員会議を開催し、職員からの意見、要望等を管理者会議で運営者に報告し、積極的に運営に反映させている。	各棟ごとに職員会議を開催し、出された意見をまとめ管理者会議で話し合われている。新たな洗濯機や水切りが楽な回転脱水モップの購入が実現し、職員の業務負担の軽減につながっている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークづくりができています。また、サービスの質の向上に努めている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで本人や家族と十分な面接を行い、検討を重ねて対応している。信頼関係を築くよう努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、要望等を十分傾聴し、その後の本人及び家族の不安の解消に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事等の参加を促したり、家族との情報交換を密にしたり、月1回のお便り、電話等で近況報告をしたり、利用者を支える関係を築いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やお便り等で近況報告をしたり、利用者を支える関係を築いている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	外出やドライブ時は自宅の前を通ったりしながら馴染みの人の場所や関係が途切れないように努めている。	感染症等の流行時は、アプリによるオンラインや窓越しの面会を活用したり、2ヶ月に1回顔見知りの美容師が来訪し髪をセットすることで関係維持に努めている。家族等に利用料の請求書を送付する際には、写真や手紙を添えて利用者の様子を伝えるようにしている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の十分な把握に努め、職員が間に入り利用者とのコミュニケーションをとり、支え合えるよう支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が終了した後も困っている時は相談に応じ、本人、家族との関係を大切にしている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活リズムを把握し利用者の希望や以降の把握に努めている。	業務日誌を中心に、利用者ごとの日々の気付きや重要事項を記載し申し送るなどして意向の把握に取り組んでいる。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での生活環境やホームの生活で本人の思いや生きがい等を検討し、全ての職員が理解するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	利用者、家族からの意見、要望等をサービス担当者会議において話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	家族から手紙や電話で要望をうかがったり、利用者ごとの介護記録等をもとにしながら担当者会議で検討し介護計画を作成している。本人の好きな活動として、パズルに取り組むことを計画に盛り込んでいる事例がある。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子等を記録しており、職員間での情報を共有しながら、実績や介護計画の見直しに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向や必要に応じて、豊かな暮らしを楽しんでいただくよう支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームで通院付き添いしているが、必要に応じ家族に同行してもらっている。利用者各々が以前のかかりつけ医を利用している。月2回訪問看護の利用ができる。	かかりつけ医のほか、近隣の協力医療機関に通院している。普段の体調管理は、訪問看護事業所が担い体調の変化等日ごろから情報交換している。院外処方があれば、かかりつけ薬局が処方薬の配達と説明をしてくれる等、連携が図られている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの医療連携体制を築いており、看護職員に利用者の状態を報告し、また、アドバイスをいただきながら状態の把握に努めている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の状態把握を行うため、担当医師、看護師から情報提供を受けている。また、必要があればホームでの状況等の情報を提供し、協力できるよう努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、ホームですべてを利用者、家族に説明しており理解していただいている。急変時は、職員全員が対応できるよう話し合っている。	ホームの方針について、家族には重要事項説明書や利用者の体調に合わせて伝え、職員には会議を通じて説明し共有している。体調が急変する恐れのある利用者があり、急変時対応意向確認書により家族等の思いを確認している事例がある。	重要事項説明書に添付された指針等の書類について、ご家族にわかりやすく提示できるよう内容を精査し、統一するよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が救急講習を受講し、初期対応や応急手当ができるよう努めている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、消火、通報、総合訓練を実施しており、全職員が災害時の避難方法を心得ている。地域の方々も避難訓練に参加して下さっている。	ホームの避難訓練には、地域住民が参加しており、顔見知りの関係がつくられている。今後、事業継続計画(BCP)を作成するにあたり、現在の非常災害時等の対応と統合する予定である。	非常災害時や体調急変時の対応方法として、心肺蘇生法や自動体外式除細動器(AED)の導入及び操作法等を学ぶ機会を定期的に設けることに期待します。
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。	日常の介護等において気になる点は、管理者が都度職員に声を掛けたり、職員会議において注意を促している。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望を取り入れながら、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立の確認をしたりしている。	誕生会や季節ごとのイベント時に、手作りの行事食が提供され利用者から喜ばれている。利用者の体調やできることを見極めながら準備と一緒に取り組み、今は茶葉をパックに詰める等している。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや必要量を考慮し食事を提供している。バランスを考慮したメニュー作りを心がけている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。援助の必要な利用者は職員と一緒にっており、コップ、歯ブラシ等の清潔保持にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、安心して排泄できるよう努めている。できるだけおむつに頼らない自立にむけた支援に努めている。	一目で確認ができるよう表を活用し、利用者ごとの排泄パターンを把握している。布パンツとパッドを併用する利用者が大半であり、トイレでの排泄を促したり、失禁した際の声掛けに配慮したりしている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や適度な運動を促している。飲食物にも考慮しながら取り組んでいる。また、医師の指導の下、薬の服薬を行っている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体調や希望、健康状態に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	両棟とも浴槽に温泉を引き込んでおり、健康維持に活用している。浴槽内に仕切りを設置することで、温泉がスムーズに貯まるようになったと説明がある。昼寝から起きたタイミングで、全身を清拭しており清潔保持に努めている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心してゆっくり休めるよう日中の活動を促している。また、薬の服薬については、意思の指導の下行っている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用等を全員で理解している。服薬による症状の変化等は、その都度かかりつけ医に相談している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲で洗濯物干し、洗濯物たたみ等を行っていただいている。ドライブやレクリエーションで気分転換を図ったり、水分補給時に好みの飲み物が摂れるよう支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホームの庭を散歩したり、ドライブ等、戸外に出掛けられるよう支援している。	季節に応じて、地元の下岩川や大湯村で桜や菜の花を、能代公園ではつつじを見物しにドライブに出掛けている。ホームの庭が広く、散歩をしたり、外気浴をしたり、季節の変化を肌で感じる事ができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望でホーム管理になっているが必要に応じて買い物をしている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気のがけ、玄関、ホールには季節の飾りつけや花などで心地良く過ごせるよう工夫している。また、清潔を保ち不快感がないように努めている。	ホーム全体的に、利用者個々のスペースを十分に確保できる広い空間がある。冬季でも屋内を歩くことで、下肢の機能維持に役立っている。ポータブルトイレを使用している利用者があるが、嫌な臭いはしない。ホールにある装飾は、これまで作ったものや新たに作った飾りを併用し季節感を演出している。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が自由に過ごせるようソファとテーブルがあり、利用者同士また職員と一緒にお茶を飲んだり思い思いに過ごせるよう居場所の工夫に努めている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時使用していた馴染みのある物を使用している。利用者一人ひとりの認知症状、ADLに合わせた居室作りになっている。在宅での生活が継続できるよう工夫している。	亡き夫や、孫の写真が飾られていたり、利用者の身体状況に合わせて、手すりつきベッドやポータブルトイレが設置されていたりし、暮らしやすさに配慮されている。時間を気にする利用者が多く、各部屋の壁には時計が掛けられている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが分からない利用者には場所を表示し、混乱や失敗がないように声掛けや見守りをしながら、自立した生活が送れるよう支援している。		